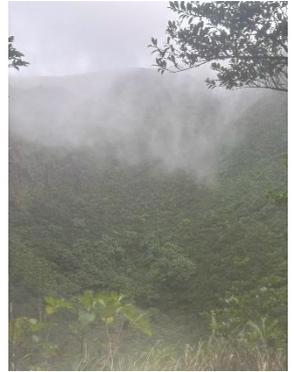


1 日目

羽田空港から1時間もかからず八丈島についた。到着し、八条植物園で八丈島の歴史や植物、気候などを映像で学んだあと登山をしに八丈富士へ向かった。八丈富士は予想よりきつく何度も下りたくなった。1200段の階段をのぼりながら、八丈島の植物や八丈島のことについて現地の方から教えてもらった。山頂につくと空気がとてもきれいで普段見ることのできない景色を見ることができた。下るときには足が痙攣するほどだったが、八丈島の小学生は毎年上っているということを知り驚いた。宿の夜ご飯では刺身も出た。マグロとタイだと思っていたが、説明を聞くとマグロではなく赤サバだった。今まで食べたことがなく、今でも貴重なものだと聞き、良い経験ができたと感じた。

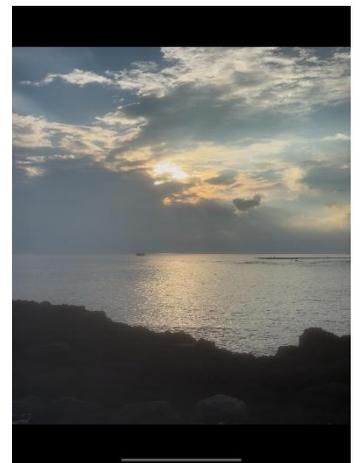


2 日目

午前には地域のタクシードライバーさんや議員さんなどが来てくださり、たくさんのお話をしてくださった。そこで最も印象的であったのは少子化の問題だった。島には大学や就職するところがあまりないためほとんどの人が高校を卒業するまでに島を出て行ってしまおうと聞いた。その後9割の人は島に戻ることなく生活している。実際に地域の方を見かけたときも年齢の高い方を多く見かけた記憶がある。午後は自由探索の時間であったため、私たちは自転車をレンタルしサイクリングをし、自然を感じながら2つの絶景スポットに行った。その後は「みのり湯」に行き絶景を目の前に温泉に浸かることができた。その後は、ミルクがとても濃厚なジャージー牛乳や島寿司を食べた。刺身の部分は醤油漬けにしてあり、ワサビではなくからしが使われていた。2日目は島の絶景や名産を堪能できた。

3 日目

最終日は、黄八丈ゆめ工房や明日葉加工場見学へ行き、それらが誕生した歴史や作られている工程を学ぶことができた。明日葉加工場では明日葉のおにぎりとお茶を頂いたが、とても苦かった。しかしこれにはがんの発達を遅らせる成分があると知り、島の方たちがみんな元気で若々しいことに納得できた。昼食は椎茸カレーを食べた。名前を聞いたときは椎茸がゴロゴロ入っておりマイナスなイメージではあったが、実際に食べてみるとスライスされた椎茸がいくつか入っており椎茸の味もあまり強くなくとてもおいしく食べることができた。その後、リゾートパークリゾート八丈島へ行き、人口を増やすお話などを聞くことができた。昔と今の差や現状などを詳しく聞くことができ貴重な経験となった。その他にも、牛の牧場を見に行き、自由にのびのびと暮らすことができているため、とてもおいしいミルクが絞れているとわかった。

**「八丈島をより活性化するため、より住みやすい場所にするためのアイディア」**

私は、八丈島をより活性化するために、「八丈島移住体験プログラム」を提案する。八丈島に実際に暮らしている現地の方のお話を聞いた際、畑と自分の仕事を両立させながら暮らしていくことが当たり前であると聞いた。畑をしている人はそれを仕事にして生活していると思っていた。普段畑仕事をやらない人が急に移住をすると、とても大変であると感じた。そこで、移住を決定する前にそこでの生活を本格的に体験することで気持ちを少し楽にすることができると考えた。最短でも1週間から始めることができる。体験期間実際に農業と仕事を両立しながらせいかつをする。体験期間と通して、島の人と交流もでき、リアルな経験をすることが可能であると考えた。

八丈島での出来事、感想

【1日目】

1日目は、八丈島が東京からわずか1時間で行けることを実感した。

八丈島ビジターセンターや八丈町役場では、八丈島の歴史や自然、八丈島のエコツーリズム、活性化のために様々な取り組みをしていることなどを学ぶことができ、とても興味深かった。

昼食後は、八丈富士に登りながら森さんから八丈富士の自然や歴史について学ぶことができた。夕方には八丈島のスーパーを訪れ、物価や営業時間の比較をすることができた。その後、帰り道で70代くらい年配の方に声を掛けられた。話を聞くと90歳の方で、とても姿勢が綺麗で元気そうな方だったため驚いた。その方は、70年前に八丈富士に下から登ったことや昔は山に女性は登れなかったことなどを教えて下さり、良い方に出会うことができて良かった。

1日目の反省点は、多くの人と交流することができたが、現地の方の話を聞く際に質問できなかったことだ。

【2日目】

2日目は朝日を見るために早起きをしたが、雲に隠れて見えずとても残念だった。

旧末吉小学校では、末吉の行事や仕事をしていて思うことなど、現地の方ならではの話を沢山聞くことができ、とても勉強になった。

自由行動の時間では、みはらしの湯やジャージー牛乳を扱うカフェなどを回り八丈島の名物を体験することができた。その際、温泉の受付の方が親切にバスの時刻を教えて下さったり、帰りのバスでは途中立ち止まっていた武蔵野大学の学生をバス停でもないのに関わらず、わざわざ停車し乗るかどうか声をかけて下さったりと島民の温かさに触れることができた。

【3日目】

3日目は晴れていたため日の出を見ることができ、とても綺麗だった。

午前中に八丈島の伝統である黄八丈や名産である明日葉について学ぶことができた。途中、衣食住で何故衣が先に来るのかと問われ、考えさせられるものもあった。

昼には持丸さんから移住を中心とした話や、午後には歌川さんからホテルや牧場を経営にするまでの話、ジャージー牛についてなどを学ぶことができた。その際、様々なことを質問することができたので、八丈島について理解を深めることができた。

帰りの飛行機では雷雨の影響で遅延や機内待機など問題が発生したが、無事帰宅することができて良かった。帰宅後、この3日間を振り返り八丈島の歴史や自然について学ぶことができたり、現地の方の優しさや温かさに触れることができたりと、貴重な体験ができて良かったと強く思った。



「八丈島をより活性化するため、より住みやすい場所にするためのアイデア」

私が考えたアイデアは、「【公式】八丈島」のアプリケーションを更に活用することです。最初に、このアプリケーションを多くの方にインストールしてもらうことが大事になってくると考えます。そのため、八丈島の各SNSや八丈島空港、旅行会社のサイトなどにて宣伝や紹介をするべきだと思います。次に、実際に使用してみて温泉ページが表示されなかったことが気になりました。そのため、温泉のページを作成するべきだと思います。例えば、温泉の営業時間や注意事項などの情報、温泉や温泉から見える景色、脱衣所の写真などの掲載です。また、実際に訪れた方や現地の方の声、温泉巡りのルートなどもあれば便利だと思います。他にも、お土産の販売場所のまとめやランキングなども掲載すれば、参考にすることができると思います。これらのアイデアは、八丈島を訪れるきっかけの一つや島の魅力を知ることができるいい機会になると思います。つまり、八丈島の観光業に貢献することができ、より島を活性化できると考えました。